

ト

松原圭助新社長にインタビュー

「技術を大事にする経営」を目指す

エト一株(神奈川県横浜市)は6月22日に定時株主総会及び取締役会を開催。齋藤壽士社長が代表取締役会長に、松原圭助専務取締役が代表取締役社長に就任した。就任に際し本紙インタビューにおいて松原社長は「平成25(2013)年に創業100周年を迎えており、歴史の重さを認識しながらも、商社として“ネットワークと技術を大事にする経営”に連続性を持つ取り組みたい」と話した。

同社は平成27(2015)年生まれで、昭和50(1975)年に機械専門商社の極東貿易株(東京都千代田区、三戸純一社長)へ入社し、アメリカ・ドイツでの二度にわたる海外駐在を経て帰国。その後管理部門を経て営業部門に移りエレクトロニクス・半導体製造装置の販売、アメリカ駐在から帰国後3年間社長を務めた齋藤会長は昭和24(1944)年生まれで、昭和29(1954)年に極東貿易株に入社し、アメリカ・ヨーロッパ・南北アメリカにも事業所を構える極東貿易株との連携を進めてグローバル・ネットワークを構築・推進している。また松原社長は今後の展望について次のように話している。

平成27年時点で、国内の事業所は横浜本社、P・Iセントラル(東京)、鹿児島工場をはじめ盛岡から九州まで18営業所だったが、この3年間で新たに、営業だけに特化した「オフィス」として、北関東オフィス(埼玉)と八王子オフィスを新設。また組織(会社)としても、社員個人の能力向上は重要であり、管理・人事・総務部門の指導の下、社員教育システムの

・素材を取り扱った後、エト一株に移り常務・専務を経て今般同社社長に就任した。

就任に際し3年間の事業展開について振り返り、齋藤会長は次のように話している。

かつてエト一株は売上200億円以上だったが、平成20(2008)年からリーマンショック以降、業績が低迷。しかし

極東貿易株による完全子会社化を経て平成27年以降、新たな経営方針の下

業績は回復基調となつて、直近(2018年3月期)では連結売上高

48億円近くとなつた。あたって、本社・各営業

共に、四半期ごとの営業

業力強化を進めるに

向かわなければならな

い。

具体的には営業部

門の強化に続き、“より

良い品質と魅力ある製品

(商品)を提供するサブ

ライヤー”として、営業

部門を支援する品質保証

・資材調達部門の強化を

更に推進したい。

また組織(会社)とし

ても、社員個人の能力向

上は重要であり、管理・

人事・総務部門の指導の

第1弾として現在アラ

に向けた組織の連続性をも見直しを進めている。さらに会社・グループ全体を社員一人ひとりが理解・把握できるよう、国内事業所勤務でも海外市場の、海外事業所勤務でも国内市场の様子が分かるように、定期的に国内外事業所勤務の社員を海外事業所に派遣・研修させるプログラムを開始。中でも海外事業所勤務の社員を国内事業所に派遣する商社として注力し、製品を持った仕入れ先を重視した“技術を大事に

する組織”として注力し、研修させるプログラムが今年7月から始まり、早い時期に売上200億円台への回復を目指した。

ルンプール(マレーシア)の事業所から1名研修に来ている。そして今まで構築してきた仕入れ先約800社とのネットワークは当社の大切な“資産”であり、今後はユーザーの期待に応える為に仕入先企業数を説。またエト一株は早くから海外展開を始め、中国・東南アジアに営業・調達拠点を構えているが、同時にインド・ヨーロッパ・南北アメリカにも事業所を構える極東貿易株との連携を進めてグローバル・ネットワークを構築・推進している。

松原社長(左)と齋藤会長



松原社長(左)と齋藤会長